

競技注意事項

1. 競技規則について

- (1) 本大会は、2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。
- (2) 本競技会については、以下の競技規則を適用する。
- TR4.4（参加の拒否）、TR8.4/8.5（現場での抗議）は適用しない。
- TR20.4（シードレーン）は〔国内〕を適用し、2023年度までの考え方で番組編成を行う。
- TR24.10（リレーメンバー）は〔国際〕を適用し、リレー競技のチーム編成はTR24.11〔国際〕を適用する。

2. 練習場および練習について

練習会場利用日程及び注意事項

練習会場	種目	10月25日	10月26日	10月27日	備考
メイン競技場	トラック	12:15～17:00	7:15～8:20	7:15～8:45	①周回（アップ・ジョグ不可） 1～2レーン 周回練習
					②ホームストレート 3～7レーン 短距離 8～9レーン ハードル
					③第1曲走路～バックストレート 第2曲走路中央 3～7レーン 短距離 8～9レーン ハードル
	※芝生内は使用不可				
	走高跳	12:15～17:00	7:15～8:20	7:15～8:45	天候、状況によって制限あり 砂場の整地は練習者が行う
棒高跳	12:15～17:00		7:15～8:45		
走幅跳	12:15～17:00	7:15～8:20			
三段跳	12:15～17:00		7:15～8:45		
補助競技場	トラック	12:15～17:00	7:15～16:30	7:15～16:30	1～2レーン 周回練習 3～6レーン 短距離 7～8レーン ハードル ※ハードルの設置は練習者が行う
					※フィールド内は使用不可
	走幅跳	12:15～17:00	7:15～16:20		天候、状況によって制限あり 砂場の整地は練習者が行う
	三段跳	12:15～17:00	7:15～16:20	7:15～16:30	
	砲丸投	12:15～17:00	7:15～8:20		
	円盤投	12:15～14:30		7:15～8:45	
	ハンマー投	12:15～14:30		7:15～8:45	
	やり投	14:30～17:00	7:15～8:20		

- (1) 上記の日程表に従って練習する。
- (2) 練習は、各チームの監督の管理のもと、指定された場所・時間帯で、事故防止に十分配慮して行う。
- (3) 練習時間・練習場所は、天候、状況によって変更や制限をすることがある。
- (4) 練習会場には、出場競技者、監督、コーチ以外は立ち入らない。
- (5) 練習会場では、係員の指示に従って練習する。
- (6) 投てき器具の貸し出しは行わない。

- (7) 投てき用具を使用した練習は上記の時間・場所以外は認めない。特に、円盤投、やり投、ハンマー投の練習は注意すること。練習中は投げる前に必ず声をかけ、周囲の安全を十分に確認してから行う。
- (8) 本競技場芝生内でのウォーミングアップは禁止とする。
- (9) 雨天走路での練習は事故防止のため、逆走を禁止する。また、ハードル、牽引ロープ及びミニハードル等の用具の使用は禁止とする。

3. 競技場使用について

- (1) 本競技場は、全天候舗装である。スパイクシューズのピンの長さは、トラックでは 9mm 以下、フィールド（走高跳・やり投のみ）では 12mm 以下を使用すること。（競技場保護のため、先の尖ったピンの使用を極力控えること。）建物内ではスパイクで歩かないこと。
- (2) 出場競技者は競技役員の指示に従って入退場すること。
- (3) 本競技場敷地内は禁煙であり、所定の喫煙所で喫煙すること。

4. 招集について

- (1) 招集所は第 4 ゲート（100m スタート側）に設置する。
- (2) リレー種目については、全員揃って招集を受けること。
- (3) 各係の指示に従って、各出発地点及び各試技場等で最終点呼を受けること。
- (4) 棒高跳は現地招集とする。
- (5) 招集完了時刻に遅れた者は、棄権とみなす。
- (6) 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ「重複出場届」に必要事項を記入し、各競技招集開始時刻の 30 分前までに招集所に提出する。「重複出場届」は学連受付（正面玄関ロビー）、招集所において配布する。
- (7) リレーのオーダーは、学連受付（正面玄関ロビー）、招集所にて配布する「リレーオーダー用紙」に必要事項を記入して、各ラウンドの各組の公表された招集開始時刻までに招集所に提出する。リレーメンバーに関しては TR24.10〔国際〕を適用し、リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレー競技または他の種目に申し込んでいる競技者であれば、誰でも出場することができる。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、最大 4 人まで他の競技者と交代することができる。

5. 欠場について

- (1) 欠場する者は、予め代表者会議（10 月 25 日（金）15:00 よりデンカビッグスワンスタジアム会議室で行う。）で届け出ること。
- (2) 当日やむを得ず欠場する者は、学連受付（正面玄関ロビー）にて「欠場届」に必要事項を記入し、招集開始 30 分前までに招集所に提出すること。

6. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは主催者が配付したものを使用すること。
※アスリートビブスは、第 98 回北信越学生陸上競技対校選手権大会及び第 46 回北日本学生陸上競技対校選手権大会で配付したものを使用すること。また、北日本 I C 以降に登録した競技者は本大会で配付するアスリートビブスを使用すること。
- (2) アスリートビブスは、胸・背両面につける。ただし、跳躍競技においては、胸または背のどちら

らか一方でもよい。また、5000m、10000m、3000mSC、10000mW の出場者は、**招集時に自身のアスリートビブスを持参し、配付される通し番号のアスリートビブスを胸・背両面につけること。**

- (3) トラック競技出場者は、招集時に配付される通し番号の腰ナンバー標識をパンツ右側につけること。

7. 競技用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、すべて主管者側が用意したものを使用すること。ただし、投てき物一覧に記載のない投てき用具とポールについては、当日事前に検査を受け、使用許可を受けたものに限り個人所有のものを使用することができる。
- (2) 個人所有の投てき物は種目を問わず、下記に示す時間・場所で検査を受けて許可されたものでなければ使用できない。検査を受けた投てき物は借り上げ式とし、競技者全員が使用することができる。ポールの検査は最終コール終了後、現地で行う。

実施日	時間	場所
10月26日（土）	7:30～9:00	TIC（正面玄関）
10月27日（日）	7:30～9:00	TIC（正面玄関）

- (3) 本大会においては、「日本陸上競技連盟競技規則 TR5」に則り、「競技用靴に関する規程」を適用する。定義されたシューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）の競技ごとの厚さは以下の表に記載する。WAが靴底の厚さを認めるシューズのリストは、WAのサイトで都度更新されるものに従う。必要に応じて、靴底の計測を行う。ただし、フィールド種目においてはWA規則を適用しない。（下記の表を参照）

競技用靴・靴底厚さ表

【2024年10月31日まで有効】

種目	ソールの最大厚さ (本規程10.6による)	その他の要件/注意
フィールド種目 (除：三段跳)	20 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、本規程10.3および10.4で言及されているように、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点）。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点）。
トラック種目 (800 m未満の種目、ハードル種目を含む)	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック競技 (800m以上の種目、障害物競走を含む)	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。

8. 競技について

- (1) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に則り規制される。これに抵触する場合は審判長から注意・警告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。

(2) 競技中における失格は「日本陸上競技連盟競技規則 TR7」に則り規制される。競技者がある種目でCR18.5に定める競技者にあるまじき行為あるいは不適切な行為等、あるいはTR16.5により2度目の警告を受けた場合は失格となる。特にスタートの遅延行為がこれに該当するため注意すること。もし、2度目の警告が違う種目で行われた場合は2度目の種目で失格となる。

(3) トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載通りとする。
- ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ③男子100m、200mは予選の記録上位8名でA決勝を行い、記録上位9～16名でB決勝を行う。なお、B決勝の記録がA決勝の記録を上回っても表彰の対象にはならない。
また、A決勝の進出者が決勝を棄権してもB決勝からA決勝への繰り上げは行わない。同様に、B決勝の進出者が決勝を棄権しても、予選記録の17位以降の競技者から補わない。
- ④男女5000m、男子10000mはグループスタートで行う。
- ⑤男女5000m、男女10000m、男女10000mWについては時間制限を設ける。それぞれ以下に示した時間までに残り一周に到達しない場合はレースを打ち切ることとする。

	5000m	10000m	10000mW
男子	20分	40分	55分
女子	25分	45分	60分

(4) リレー競技

4x100mリレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大50mm×400mmの粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行うこと。

(5) フィールド競技

- ①フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の手配に従うこと。
- ②跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。ただし、走高跳のマーカーは競技者が用意すること。また、砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ③三段跳の踏切板の位置は、男子は12m、女子は9mとする。
- ④棒高跳の競技者は、希望するアップライト位置を競技開始前に跳躍審判員に申し出ること。
- ⑤走高跳および棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	以後3cm刻み
男子棒高跳	2m90	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	以後10cm刻み
女子走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以後3cm刻み
女子棒高跳	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	以後10cm刻み

(注) 第1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。優勝が決まった後にバーを上げる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

9. 抗議について

競技進行中に起きた競技者あるいはチームの行為、または順位に関する抗議については、その競技者あるいはチームの監督が、その種目の結果の正式発表（アナウンス）後 30 分以内に、次のラウンドが行われる競技では 15 分以内に、学連受付（正面玄関ロビー）に申し出ること。その後、担当総務員を通して口頭で審判長に行く。その間抗議者は学連受付で指定する待機場所において待機すること。

10. 携帯電話等通信機器の持ち込みについて

ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技区域内で所持または使用することを禁止とする。

11. 表彰について

- (1) 表彰は各種目 3 位まで行う。該当する者は競技成績発表（アナウンス）終了後、表彰を行うので、**各学校の公式ジャージ等**を着用のうえ表彰待機場所（正面玄関ロビー）に集合し表彰係の指示に従うこと。該当者が他の競技に出場し、受賞出来ない場合は所属校から代理を出すこととする。その際に、表彰係に代理人であることを申し出ること。
- (2) 各種目 4 位～8 位には賞状を授与するので、学連受付にて受け取ること。
- (3) 男子 100m、200m は予選の記録上位 8 名で行う A 決勝レースのみ表彰の対象とする。
- (4) 最優秀選手（男女各 1 名）、優秀選手（3 名）にはトロフィーを授与する。

12. その他

(1) 応急処置について

競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療は本人または所属チームの責任で行うものとする。また、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。また、テーピングについて、競技中に捻挫等の故障をした場合は応急処置として医務員が対応するが、それ以外(怪我対策のテーピング等)は自己負担とする。